

## 「南京事件」70周年キャンペーンに対抗する

2007年は「南京事件」70周年にあたり、かつ北京オリンピックの前年ということで、「南京事件」を題材とした反日映画が多数製作される予定と伝えられています。

判明しているものとしては、①江蘇省産業グループと米国映画会社のタイアップ企画、②香港のスターリン・トン監督が製作中と伝えられるもの、③陸川監督（2004年東京映画祭審査員特別賞受賞監督とのこと）製作による映画『南京！南京！』などです。

さらに、近日、「紫金山プロダクション」という華僑系の映画会社の製作による映画『南京』が、2007年1月に開催される「サンダンス映画祭」に出品されるという情報ももたらされました。

この情報は、本作のスポンサーとなっているAOL副会長テッド・レオンシス（Ted Leonsis）が自身のブログ（2006年11月29日付）でこの事実を発表したことによって（<http://ted.aol.com/index.php?yearMonth=2006-11>）裏付けられました。

映画公式サイトのお知らせ（<http://nankingthefilm.com/synopsis.html>）を見ると、「1937年の冬、日本侵略軍の手により中国人20万人以上が殺され、何万人もが強姦された」とあり、ジョン・ラーベら所謂「南京安全区国際委員会」のメンバーらを「25万人の中国人達の命を救った英雄」として描くものとなっています。

レオンシスは11月29日のブログでアイリス・チャン（かの『ザ・レイプ・オブ・南京』の著者）を持ち上げており、南京事件について何の知識もないことは明らかでしょう。

これに対し、当会では早速、レオンシス氏に対し警告の書面を發しました。この書面には、①南京の人口に関する記録（1937年12月13日の陥落時に20万、12月27日時点20万、1月4日時点25万、つまり増加こそすれ減少した形跡はない）及び②中国国民党中央宣伝部の極秘資料にあった記者会見記録（1937年12月～1938年11月までほぼ毎日、外国プレスを集めて約300回の記者会見を行っているが、南京における虐殺事件に言及した痕跡は無い）を示し、本作の依拠する事実の虚構性、不当性を指摘しました。

また、警告書には当会英文HPに掲載されている『南京虐殺の徹底検証（英訳版）』（東中野修道）、『What Really Happened in Nanking』（田中正明）を添付しました。

当会では、今後とも本作に対する監視と抗議を継続していく予定です。また、南京事件に関する英文書籍のラインナップをさらに充実させていくことが急務と考えております。